

2022年度のサポーター活動

サポーター制度は、山口博物館の理念や活動に共感し、ともに山口博物館をつくっていかうという意志を有する方に登録いただき、博物館の取組等に対する様々なサポート活動を行っている。

令和5年3月末の登録者数は46名である。令和4年度の活動はのべ200日以上、のべ800名以上のサポーターが活動をした。各分野別の活動状況を報告する。

天文部門サポーター活動

天体観望会など、教育普及の天文行事の実施サポートを行った。観望会の準備、望遠鏡の操作、観望会一般参加者の受付・案内・誘導、観望会での解説、観望会の片付けなどで、その他望遠鏡のメンテナンスや資料整理のサポート活動、天文分野の企画展の展示活動を行った。天体観望会や天文ワークショップなど年間9回実施し、のべ45人の天文サポーターが活動した。



企画展の展示準備の様子



「はじめての望遠鏡」講座で望遠鏡の解説

理工部門サポーター活動

収蔵資料の整理やデジタル化、工作講座や特別展などで使用する教材の開発及び教育普及行事のサポートを行うグループに分かれ、それぞれ、毎週金曜日及び教育普及行事当日に活動を行った。のべ71人の理工サポーターが活動した。



「科学工作講座」での指導



「雪の結晶をつくろう」での指導

植物部門サポーター活動

植物標本作成（台紙への貼り付け作業など）、植物標本のデータ整理（パソコンへのデータ入力など）、植物標本の配架作業（標本棚への配架や標本の検索・確認など）を行う全体的な活動日を毎月の最終水曜日と定め活動を行った。植物標本のデータ整理では、毎週水曜日に活動を実施した。

その他にも、教育普及講座のサポート活動や秋吉台での希少植物の植生調査など、のべ47回、163人の植物サポーターが活動した。



講座「標本での飾りづくり」の指導



植物調査（秋吉台）



植物標本の作成

動物部門サポーター活動

哺乳類・鳥類などの仮剥製・骨格標本作製を行う「ホネっこ」グループの活動ができた。毎週木曜を標本整理日と定め貝類・昆虫類・魚類の整理と登録、標本作製作業を行った。GBIF 事業については、これまで 45,000 件の山口博物館の昆虫類標本・軟体動物が公開されているが、本年度新たに 7,000 件申請した。また、教育普及行事のサポート活動を行い、講師として、参加者の指導と安全管理を行った。地域のインベストリー調査として 2015 年 4 月から月 2 回土曜に鴻ノ峰生物採集・観察・標本作製を行った。2023 年 3 月までの 8 ヶ年で、昆虫類 1,500 種以上確認し、採集した個体は 10,000 を超えた。動物サポーターの活動報告として「サポちゃん通信 10 号」を 9 月に、「サポちゃん通信 11 号」を 3 月に発行した。また、特別展「ふしぎ！おどろき！大動物展」のジオラマ展示物作製と展示作業を行った（上段写真）。会期は 2023 年 7 月 15 日から 8 月 28 日で、博物館 3 階で行った（下段写真）。



原寸大の型紙を基にジオラマ作製



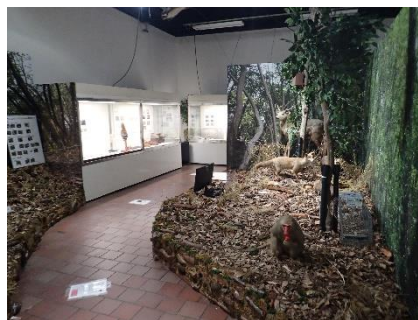
アナグマの巣穴作製



展示会場でジオラマの組み立て



完成したジオラマ 1



完成したジオラマ 2



アナグマの巣穴展示

地学部門サポーター活動

1 名が活動し、不定期で資料整理を行った。また、教育普及講座地学教室①地質観察でサポート活動した。